



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第19回「鉱工業(生産・出荷・在庫)指数の動向(速報)」

4月30日に経済産業省から「2024年3月の鉱工業(生産・出荷・在庫)指数の動向(速報)」が発表されました。鉱工業指数とは、日本の鉱業や製造業の生産、出荷がどのくらい行われ、在庫がどのくらいあるかを、基準年の年平均を100とした比率で表したものです。全産業や業種ごとに「生産」、「出荷」、「在庫」、「在庫率」が翌月末に発表されます。また、経済産業省の製造工業生産予測調査をもとに、翌月、翌々月の生産を予測して発表しています。そのため、1か月先の製造業の生産活動を想定しやすくなる利点もあります。今週は直近発表になった「鉱工業指数の動向」についてお伝えします。

～3月の鉱工業指数～

3月の鉱工業指数(季節調整済み)は「生産」が101.1、出荷が100.0、在庫102.7在庫率は106.7となりました。生産は前月比3.8%の上昇となりました。2023年末に発覚した某自動車会社の不正認証問題から2024年1～2月に全工場の稼働停止の影響を受けて自動車工業などの生産が低下したため、鉱工業全体の生産も低下していました。3月以降工場稼働が徐々に再開し、自動車工業などの生産が回復、全体も3か月ぶりに上昇しました。「出荷」は工場稼働再開で前月比4.3%の上昇となりました。一方、「在庫」、「在庫率」については、「在庫」が前月比1.1%上昇、2か月連続の上昇、「在庫率」は前月比7.1%上昇、2か月ぶりの上昇となりました。「生産」が上向きになり、「在庫」や「在庫率」が低下する時は企業活動が好調となり、将来の企業業績が拡大することが想定されます。一方、その逆の場合には企業業績が低迷することが想定されます。

～製造工業生産予測指数～

さて、製造工業生産予測調査による先行きの見通しですが、グラフ1をご覧ください。この調査によれば4月の予測は前月比+4.1%、5月が前月比+4.4%となりました。この予測を鉱工業指数の「生産」に当てはめると、4月は105.2、5月は109.8となります。グラフ1に明示した2つの赤い丸がその値を示しています。昨年12月からの自動車工業の不正認証問題に伴う工場閉鎖が解消され、生産の再開で鉱工業生産は回復基調に入ります。この回復が実現すれば、製造業の景況感が強くなり、景気動向指数や日銀短観の先行き見通しが回復すると見込まれます。そうなれば、4月以降上昇が一服している日本株も再び強い値動きに戻ると考えています。当指数は業種別にも発表されているため、業種のウェイトを決める際にも参考になります。

今後、この指数に大きな変化がでた業種などについてもリポートしていこうと考えています。



(西村証券 作成)